

千葉県感染症発生動向調査情報

2012年 第7週 (2/13-2/19) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		7週	6週	5週	4週
小児科		16	16	16	17
眼科		5	5	4	5
インフルエンザ*		26	26	26	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 2/6-2/12 6週
		注意報	2/13-2/19	2/6-2/12	1/30-2/5	1/23-1/29	
			7週	6週	5週	4週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	4	5	32
	咽頭結膜熱		2	0	1	0	48
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		23	40	33	24	317
	感染性胃腸炎		116	106	121	120	961
	水痘		10	18	14	34	132
	手足口病		0	1	2	1	19
	伝染性紅斑		2	2	2	5	12
	突発性発しん		5	5	8	10	44
	百日咳		0	0	0	0	5
	ヘルパンギーナ		0	0	0	2	2
	流行性耳下腺炎		1	1	5	3	28
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザ*を除く)	★★★○	1,037 39.88	1,005 38.65	1,201 46.19	878 32.52	10,293 49.72
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		0	2	3	4	25
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		2	2	1	5	7
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1	0	1	3	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	臨床診断	結核	女性	10歳未満	臨床診断
結核	男性	20歳代	QFT	結核	女性	70歳代	画像診断
結核	男性	20歳代	QFT	結核	女性	70歳代	画像診断等
結核	男性	30歳代	病原体の検出	結核	女性	80歳代	QFT等
結核	男性	50歳代	画像診断等	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	60歳代	画像診断等	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状

・結核10件(48)、急性脳炎2件(6)の報告があった。

()内は2012年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第7週のコメント

<インフルエンザ> 前週より増加し39.88となった。過去10年間の同時期と比較すると多め。

トピック

<インフルエンザ>

2011年の今シーズンの全国レベルは、2012年第6週現在は過去5年間の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、大分県、石川県、岩手県の順で報告が多くなっています。千葉県は全国レベルと比べると多めで、関東地方でも多めとなっています。千葉市は、2012年第7週は前週より再び増加し39.88となり、過去10年間の同時期と比較すると多めで、平均+SDを超えています。型別迅速診断結果では、A型が72.4%ですが、B型が19.8%とおよそ2割近くを占めています。例年、春先にかけてB型の感染例が増加することから、引き続き注意が必要です。1年代当たりの年齢階級別に見ると、7歳、5歳、6歳の順で報告が多くなっており、幼児～小学校低学年で多く発生している状況が伺えます。区別の発生状況では、中央区及び緑区で再び増加し、緑区は流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を再び上回りました。中央区及び美浜区で発生が多く、共に10-14歳が最多の他は中央区で7歳、美浜区で6歳が多くなっています。全国的に検出されているウイルスは香港型(A/H3N2)が大半を占めており、千葉市で検出されているウイルスは第7週現在は全て香港型(A/H3N2)となっています。この型は低年齢層では免疫がなく感染しやすい他、高齢者が感染すると重症化しやすいと言われています。

ワクチンは、接種してから効果が表れるまで2～3週間かかるとされていることから、早目の対策を心がけましょう。

現在気温が低下していることから、感染防止の注意が必要です。予防として、家庭内のみならず、外出先においてもこまめに手を洗うなど基本的な予防の励行のほか、十分な栄養と睡眠をとるなど普段から免疫力を高めておくことも大事です。

また、感染した場合は、周囲へ感染を広げないよう、外出を控える他、マスクを着用する等の咳エチケットを守ることが重要です。

<咳エチケット>

○咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。

○鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。

○咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

※咳エチケット用のマスクは、薬局やコンビニエンスストア等で市販されている不織布(ふしよくふ)製マスクの使用が推奨されます。N95マスク等のより密閉性の高いマスクは適していません。

※一方、マスクを着用しているからといって、ウイルスの吸入を完全に予防できるわけではありません。

※マスクの装着は説明書をよく読んで、正しく着用しましょう。

